



目標—指導—評価の一体化のための学習評価



# 中学校特別活動のポイント



中学校特別活動について、「各学校で定める評価の観点」及び「内容のまとめり」の考え方を踏まえた評価規準の作成から、評価の総括までの一連の流れを、第1学年「学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の事例を中心に説明します。



## I 「評価の観点」とその趣旨、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する流れ

**[Step1]** 学習指導要領の「特別活動の目標」と改善等通知（H31.3.29 初等中等教育局長通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」）を確認します。

**[Step2]** 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、改善等通知の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定します。

[事例] オーソドックスな「評価の観点」とその趣旨の設定例

評価の観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
その趣旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。 よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

[別例] 特別活動における資質・能力の視点「社会参画」をもとに重点化を図った「評価の観点」とその趣旨の設定例

評価の観点	集団の一員として活動するために必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするための思考・判断・表現	よりよい社会の形成に向けて主体的に自己を生かす態度
その趣旨	学級・学校集団や社会生活の中で他者と協力して役割を果たすことの意義を理解し、そのための話し合いの進め方を身に付けている。	学級や学校、社会生活の充実・向上のために課題を発見し、集団としての解決方法を合意形成したり、個人としての実践目標を意思決定したりしている。	現在及び将来の自己の活動や役割を振り返ることで、成長や課題を認識し、これからの集団生活の改善に生かそうとしている。

**[Step3]** 学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説に例示された「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定します。

**[Step4]** 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成します。

**Point!**

### 観点ごとの評価規準作成のポイント

**1 知識・技能**

- ・話し合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉えます。
- ・文末は「理解している」「身に付けている」。

**2 思考・判断・表現**

- ・習得した基本的な知識・技能を活用して課題を解決することと捉えます。
- ・文末は「している」。

**3 主体的に学習に取り組む態度**

- ・自己のよさや可能性を発揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉えます。
- ・目標をもって粘り強く話し合いや実践活動に取り組み、自らの活動を調整しながら改善しようとする態度を重視するので、「見通しをもったり振り返ったりして」という表現を用いる。
- ・文末は「しようとしている」。



### 【参考】特別活動の「内容のまとめり」

- 1 学級活動(1)  
学級や学校における生活づくりへの参画
- 2 学級活動(2)  
日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- 3 学級活動(3)  
一人一人のキャリア形成と自己実現
- 4 生徒会活動
- 5 学校行事(1) 儀式的行事
- 6 学校行事(2) 文化的行事
- 7 学校行事(3) 健康安全・体育的行事
- 8 学校行事(4) 旅行・集団宿泊的行事
- 9 学校行事(5) 勤労生産・奉仕的行事

[事例] 「学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の評価規準の例

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
○学級や学校の生活上の諸問題を話し合 って解決することや他者と協働して取 り組むことの大切さを理解している。 ○合意形成の手順や活動の方法を身に付 けている。	○学級や学校の生活をよりよくす るための課題を見いだしている。 ○課題解決に向け、話し合い、多様 な意見を生かして合意形成を図 り、協働して実践している。	○学級や学校における人間関 係を形成し、見通しをもた り振り返ったりしながら、他 者と協働して日常生活の向 上を図ろうとしている。

[別例] 「生徒会活動」の評価規準の例

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
○生徒会やその中に置かれる委員 会などの異年齢により構成され る自治的組織における活動の意 義について理解している。 ○全校の生徒をもって組織する大 きな集団での活動のために必要 なことを理解し行動の仕方を身 に付けている。	○生徒会において、学校全体の生活 をよりよくするための課題を見 いだしている。 ○全校の生徒をもって組織する大 きな集団における課題解決のた めに話し合い、合意形成を図つ たり、意思決定したり、人間関係 をよりよく形成したりしている。	○自治的な集団における活動を通し て身に付けたことを生かして、多様 な他者と協働し、学校や地域社会に おける生活改善を図ろうとしてい る。 ○3年間や全校という視野で見通し をもったり振り返ったりしながら、 よりよい生活を築こうとしている。

II 指導と評価の計画を立てる

学習指導要領解説に例示された、「学級活動(1)において育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において設定します。



1 学級活動(1)で育成を目指す資質・能力

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大  
切さを理解し、合意形成のための手順や活動の方法を身に付けている。
- 学級や学校生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見  
を生かして合意形成を図り、協働して実践できる。
- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学  
校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする。

2 学級活動(1)の評価規準 (※本ページ上部の[事例]のとおり)

3 指導と評価の計画 ※第1学年 学級活動(1) 議題「よりよい学級生活をつくろう」を例に

(1) 一連の活動

時 間	○ねらい ◇学習活動	目指す生徒の姿
学校行事 入学式後	<b>学級開き</b> ○自分の実態を知る。 ◇小学校の「キャリア・パスポート」から、今の自分 ができていないこととできていないことをまとめる。	・自分の実態と担任の思いを知り、学級 や学校生活をよりよくするための課題 を見いだしている。【思考・判断・表現】
朝の会 及び 帰りの会	<b>自分の考える学級目標</b> ○自分の実態と担任の思いから自分なりに学級目標を 考える。 ◇自分なりに学級目標案を考える。	
本時	<b>よりよい集団をつくろう</b> ○学級目標を決める。 ◇個人で考えてきた学級目標をグループで出し合う。 ◇グループの考えをまとめ、学級目標グループ案を決 める。 ◇学級全体で話し合い、学級目標を決める。	・互いの意見や可能性を生かし合うこと の大切さを理解し、話し合い活動の仕方 を身に付けている。【知識・技能】 ・異なる意見から共通点を見だし、合 意形成に向け(個人として)取り組ん でいる。【思考・判断・表現】
朝の会 及び 帰りの会	<b>よりよい生活をつくろう</b> ○学級目標から個人の1学期の目標を考える。 ◇学級目標を確認する。 ◇自分の1学期の目標、取組を考える。	・学級目標を踏まえて、個人の1学期の 目標に取り組もうとしている。【主体的 態度】

(2) 本時の展開

	生徒の活動	○目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
導入	◇ワークシート「よりよい学級生活をつくろう」を活用して自分が宿題で考えてきた学級目標を確認する。	
展開	◇「よりよい学級生活をつくろう」を活用してグループで意見を出し合い、まとめる。 ▶自分が考えた学級目標を発表する。 ▶発表している人の考えを聞き、ポイントをメモする。 ▶グループとしての学級目標案を考える。 ◇全員で学級目標を決める。 ▶各班で決めた学級目標案を発表する。 ▶「よりよい学級生活をつくろう」を活用して、発表している人の考えを聞き、ポイントをメモする。 ▶学級委員が調整役を果たしながら合意形成に向けて練り合う。 ▶折り合いを付け、学級目標を全員で合意形成する。 ※学級委員が進めているため、本時の展開の中で教師が全生徒を観察により見取ることができる時間である。そこで、合意形成の視点での見取り表を用いて生徒の評価を行う。 ▶合意形成した学級目標を確認する。	 <p>○互いの意見や可能性を生かし合う話し合い活動の仕方を身に付けている。【知識・技能】〈ワークシート〉</p> <p>○異なる意見から共通点を見だし、合意形成に向け（個人として）取り組んでいる。【思考・判断・表現】〈ワークシート、観察〉</p>
終末	◇実践に向けて ▶担任からの合意形成した過程や全員で決めた学級目標に対する思いを聞く。 ※学級目標を実現するために（予告） 「次の活動は、学級目標を踏まえて個人の1学期の目標を決めてもらいます」（担任） ●自己評価表を担任に提出する。	※生徒の思いを大切にしながら、学校・学級として育てたい資質・能力についてもコメントする。

Ⅲ 観点別学習状況の評価

※特別活動の評価において最も大切なことは、生徒一人一人のよさや可能性を生徒の学習過程から積極的に認めるようにするとともに、「育成を目指す資質・能力」がどのように成長しているかということについて、各個人の活動状況をもとに評価を進めていくことです。

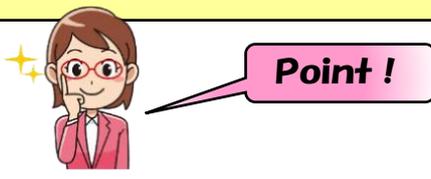
※特別活動は、「育成を目指す資質・能力」と「評価規準」を、内容のまとめりとともに学校で設定しています。

※例えば学級活動(1)であれば、議題が変わっても「育成を目指す資質・能力」と「評価規準」は変わりません。学期等ある程度の期間で評価を積み上げることが大切です。

※学級活動(1)の評価については、話し合いのめあてに沿って考え発表し合っているか、合意形成に向けて取り組んでいるかなど、生徒の活動の様子を観察して見取ります。

※しかし、生徒一人一人の話し合い活動の状況を1単位時間ですべて見取することは困難ですから、右のようなワークシートを活用し、その記述からも見取ります。

※評価が目的とならないよう、見取ったら資質・能力の育成を視野に支援を行うことが重要です。



**「よりよい学級生活をつくろう」シート**

( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

1. グループで話し合って学級目標案を考えよう

自分が考えた学級目標案  【知識・技能】 自分の現状を踏まえた案となっているかを見取る。	グループの他の人が考えた学級目標案
---	-------------------

メモ（意見を聞いて気になったこと、考えたこと）

【知識・技能】  
互いの意見や可能性を生かし合った話し合い活動の仕方を身に付けているかを見取る。

学級目標案

2. 全員で学級目標を決めよう

他のグループの学級目標案

メモ（意見を聞いて気になったこと、考えたこと）

学級目標

<※学級目標を決める過程で他者の意見から気付いたこと>

【思考・判断・表現】  
異なる意見から共通点を見だし合意形成に向け（個人として）取り組んでいるかを見取る。

## 【評価方法の工夫例 その1】 合意形成に向けた活動の見取り

※「よりよい学級生活をつくろう」を例に

主たる活動の場において「どんな発言ができたか」→「意見をどう調整したか」→「意見に対してどう折り合いを付けたか」の視点で話し合い活動における生徒の発言を記録し、総括評価の時の資料とする。(○:十分満足できる活動の状況)

どんな発言ができたか	生徒A：「尊重」という言葉は、絶対入れたい。 生徒B：「尊重」って固くない？ 生徒C：「互いのよさを生かす」ではどうかな。 →○ 生徒D：「尊重」ってCさんが言うようなことだったと思う。
意見をどう調整したか	生徒E：でも「よさ」って限定的に聞こえるよね。 生徒D：「互いの可能性」ではどうかな。 生徒F：これまでの話し合いをまとめると「互いの可能性を生かす」ですよね。それを一歩深めて「互いの可能性を生かし合う」ではどうでしょうか。 →○
どう合意形成したか	司会：「互いの可能性を生かし合う」に修正意見はありませんか？ 生徒A：みんなのおかげで私は納得できました。 →○

## 【評価方法の工夫例 その2】 ワークシートに基づき評価する際の教師の視点

### (1) 見取りの視点

- ① 異なる意見に配慮すべきことが書かれている。(下の例 \_\_\_\_\_)
- ② 学級全体で協働して学級生活の向上を図ろうとすることが書かれている。(下の例 \_\_\_\_\_)

### (2) 見取りの例 (○:十分満足できる活動の状況)

【ワークシート中<※学級目標を決める過程で他者の意見から気付いたこと>についての記述】

生徒G →○	最後まで自分の考えにこだわっていたJさんの意見も、学級目標に入れられてよかった。話し合いで意見を言わなかったKさんに聞いたら、「自分もそう思っていた」と言ってくれたので安心した。これからお互いの可能性を生かし合って楽しい学級にしていくことが大切だと思う。
生徒H	意見を言わなかった人にも聞いてみるべきだったと思う。時間内に決められて、よかった。
生徒I	自分の意見を堂々と言うことが大事。決まったことは守る。

### (3) 異なる意見への配慮、協働して向上しようとする姿を見取ることができない場合

物事を多面的に見ることの必要性や、多様性を欠く協議の脆弱性に気づくような指導助言が求められる。その際には、集団指導の場面でのガイダンスの機能を生かしたアプローチも考えられるが、個々の生徒のワークシートを活用していることから、個別指導の場面でのカウンセリング機能を生かしたアプローチが有効と考えられる。

## IV 評価の総括

※教師の見取りによる評価をベースに総括評価を行う場合の例

No.	氏名	学期	学級活動(1) の内容	教師の見取りによる評価			学級活動(1) の総括評価
				知・技	思・判・表	主体的態度	
1	△△ △△	前期	ア	○	○	○	○
			イ	○		○	
		後期	ウ	○	○	○	
			学年	○	○	○	
2	◇◇ ◇◇	前期	ア				
			イ	○			
		後期	ウ				
			学年				

**Point !**

※生徒指導要録には、学級活動(1)(2)(3)のそれぞれの実践をもとにした評価を総合的に判断して、学級活動として十分に満足できる活動の状況であると判断できる生徒に「○」を付けます。学校行事も同様。  
※生徒会活動については、観点別学習状況の評価の総括を生徒指導要録に記載します。  
※生徒会活動及び学校行事においては、学級担任以外の教師が担当する場面も多いため、評価に必要な資料の収集や教師間の情報交換等、評価体制を確立し指導に生かすことが求められます。

